



## どちらを選ぶのか

先日、屋島集団宿泊学習の周知会の後、会場を出たところで、ある保護者の方から声をかけられました。今は1年生の保護者ですが、彼女はその昔、和光中で担任をした生徒の一人です。「久しぶりやな。元気そうで何より。」と、入学式で再会を喜び合ったときのように、昔を懐かしみながら語り合う中で、「先生、弟がこのお盆に帰省したんやけど、その時に『姉ちゃん、次、学校へ行ったら必ず先生に伝えて。』と言われたことがあるんです。」と、真剣な顔で話し始めました。この「弟(Tさん)」は、お姉さんが和光中を卒業した翌年に担任をした生徒です。

お姉さんにTさんが語った内容は、「3年生の秋、二つの高校のどっちにしようか迷っていた頃、心の中で、余裕で受かるA校に行ったほうが楽やなあ、もう一つのB校は入ったら勉強が厳しそうやから面倒やなあと思っていた矢先のこと。進路相談で先生に『安易な道を選ばな！』と、バシッと言われて、頭から冷や水を浴びせかけられたようにハッと目が覚めた。あの一言がなかったら絶対今の俺はなかった。高校入学後も仕事に就いてからもずっと何かの選択を迫られて『どっちを選ぼうか、どっちの道に進もうか』と考えたときには、必ず先生の言葉を思い出して『めんどくさい方、キツイ方』を選んできた。楽な道を選んでいたら今の自分はない。」でした。私が「そんなこと言うたんやなあ。言った本人は覚えてないなあ。」と言った後で、「それで、今、弟はどうしよん？」と尋ねると、「〇〇県で7年間銀行に勤めた後、ヘッドハンティング(A社で働く有能な人を引き抜いてB社に採用すること)されて、今は建設会社に勤めています。大きな介護福祉施設や幼稚園の建設を請け負う会社で、その会社の『代表』の下にいる『取締役3人』の一人になりました。今では、私の何十倍も給料をもらっています。」と教えてくれました。「年末に帰省したら、和光に立ち寄るよう伝えて。」とお願ひし、その後校長室に戻り、当時の卒業アルバムを開きました。昔の写真の中にTさんのあどけない顔を探しているうちにいろいろな思い出がよみがえり、立派に成長したんだなあと思うと嬉し涙が溢れてきました。

「人生は『決断の連続』で出来ている」と聞いたことがあります。Tさんのように、しんどい道を選んだ人は、苦勞した分だけ他の人よりも「わかること、できること」が増えます。その分、周りの人から必要とされ、大事な仕事を任されることで達成感を味わい、充実した人生を送ることができます。

いよいよ明日は運動会本番です。天気は晴れ、最高気温 33℃の予報です。暑い中、走ったり、踊ったり、重い用具を運んだりします。走るのは面倒だし、仕事を人任せにして逃げたい気持ちになるかもしれません。そんな時には、どうかこれまで頑張ってきた練習の日々を思い出してください。3年生は7/18、そして9/11の炎天下に自転車を走らせ、こども園の園児たちに『鉄おどり』を指導しました。また、9/12にも、園児たちとB&Gでリハーサルを行いました。踊りを教える様子を見ていた園児の保護者の方から電話が入り、「上の子がもうちょっとで和光中に入るので気になっていたのですが、中学生が優しく踊りを教えてくれているのを見て本当に安心しました。ありがとうございます。」と感謝の言葉をいただきました。また、B&Gでの全校練習では最上級生が連日一番に来て、当たり前のように下級生のテントへブルーシートを運び敷いていました。縦割りチームの後輩たちは3年生の背中を見て育ちます。明日は「全員が全力で頑張った！」と言える素晴らしい思い出を心に刻みましょう。

